

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

一口メモ

同時開花

今年の安芸太田町内の桜は瀬戸内とあまり変わらず、四月に入るとともに一気に開花

した。町内では一週間から場所によっては十日ほど遅れて満開になるのが常である。沿岸部の人には三段峡内のヤマザクラで、二度目の

の花見を楽しめる可能性もある。同時開花の要因が秋冬の暖かさで、「花芽の目覚めが悪くなり、開花が遅れるため」と聞くと複雑ではある。

カフェ営業の研修やメニュー開発

LOUPE 水槽一新、毎月の企画展予定

四月からのLOUPEオープン控え、カフェ営業の研修やメニューの開発、水槽設備の充実、広大さんけん部による企画展示の準備などが、さんけん会員らの協力で進んだ。

LOUPEの収益の柱と位置付けるカフェ営業の研修を三月二十九日、本宮炎



溝口社長から抹茶の点て方の指導を受ける小早川さん(左)

理事長や井上高裕隊員、カフェを担当する小早川智里さんらが、尾道市の宇治園製茶の「日本茶ば〜UJ〜」

で受けた。お茶の起源や種類の説明を聞き、抹茶やラテづくりなどの実践やLOUPEで実際に提供するメニューを作った。同社の溝

口義輝社長は「日本茶と三段峡を訪れた人がつながるきっかけになれば嬉しい」と期待を寄せた。昼食用の見浦牛セイロや各種コ

ーヒー、プリンなどのメニュー開発にも取り組んだ。LOUPEの展示では、観賞魚の水質管理を手掛ける廿日市市のアロヒフィッシュスタジオの協力で、二十六の水槽が設置された。魚類や両生類が種類別の展示になり、明るく観察しやすくなった。

今年から毎月、趣向を凝らした企画展示を予定している。四月は広大さんけん部が、オオサンショウウオをテーマに、三段峡での調査結果や生態を解説する。LOUPEの営業は四月六日から(水・木休館)。カフェは土・日・祝の営業。

ドコモの助成事業中間発表会 幅広い人材育成 評価

ドコモ市民活動団体助成事業の中間発表会が三月三日、五十二団体が参加してオンラインで開かれた。四団体が発表し、さんけんは人材育成事業を報告した。同事業の川本秀人選考委員長は、未就学児から大学生までが活動する仕組みを評価し、持続性を高めるために市民が関わられるよう、寄付を募る方法を提案した。広大さんけん部は部員が就職するなど、人材育成が成果を生みつつある。本宮炎理事長は「さんけんに関わった若者のコミュニティを組織したい」と話し、意欲をみせた。

初のインターン生受け入れ

観啓大・綿崎さん 環境団体の活動体験

さんけんは今年二月から四月上旬まで、広島県立観啓大学ソーシヤルデザイン学科二年生の綿崎真由さんを初のインターン生として受け入れた。環境団体の活動体験が目的で、三段峡やさんけんについて学び、オ

地元民と交流する南峰 貴重な一枚

なく、貴重な一枚。三段峡へ入映して十五年が経ち、五十五歳になっていた。

野田家の倉に眠っていたガラス乾板写真をデジタル化し、写真集「芸北、カメラが語る昭和初期」の編集に携わった紺野昇さんを二〇一九年、さんけんメンバー

が訪ねた。その際、未掲載写真のうち三点に南峰が写っているのが見つかった。いずれも三二年十月末、広島県学務部が三段峡葎ヶ原の羽田山荘で開いた「三段峡開発座談会」に出席した後の写真だと思われる。撮影場所は同村のどこか

で、地元の親しい人との交流を撮影したのでだろう。三段峡はその七年前、名勝指定を受け、道や施設などが整い、戦前の賑わいのピークになった。座談会では「猿飛の小舟では客が捌けないのが課題」とされるほどだった。(松尾俊孝)

羽ばたく 広大さんけん部

広大さんけん部で活躍したメンバーが、昨年に続き今年は4人が実社会へ羽ばたいた。さんけんでの活動が貴重な経験になっている。



加藤陽菜さん(福岡県庁行政職員、2023年3月卒業)オオサンショウウオの調査や展示資料作成に参加。講義にはない地域資源の活用、市民団体の活動を実体験できました。



大崎壮巳さん(日本学術振興会特別研究員・早稲田大学次席研究員)2019年から参加し、広大さんけん部を設立。22年には理事就任、人脈を広げ、組織運営のノウハウも学びました。



南葉錬志郎さん(NPO法人河北潟湖沼研究所職員)初代広大さんけん部長。得意の生物写真を活かし「原色広島三段峡図鑑」を制作。LOUPEの展示責任者を務めました。



宮田優大さん(農林水産省)広島大の「元気応援プロジェクト」代表としてLOUPEの前身となる展示を作成。住民と協力して狩猟も。地域の魅力と課題に気付きました。



平野和己さん(沖縄美ら島財団動物系職員)水族館の飼育担当です。専門分野は両生類。オオサンショウウオを調べたくて入部。LOUPEの展示方法で助言しました。

水梨口道路通行止め 観光へ影響深刻

木口からのルートも不通になっており、観光客の大幅減が避けられない。渡船、駐車場収入が見込めず、トイレ管理にも支障がある。



セピア写真帖

(17)

山県郡八幡村(現・北広島町八幡)の野田富示仁が、一九三二年に撮影した熊南峰の姿を留めた写真である。左から三人目、猪口を手にした背広の男性で、いつもは撮る側の南峰の写真は少